

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 32 号 平成 20 年 7 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

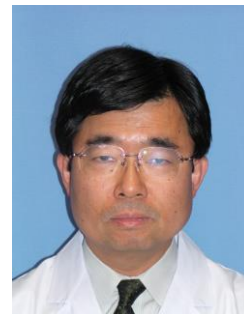
TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

妊娠中もシートベルトを

産婦人科部長 齋藤 満



—正しい着用は母児を守ってくれます—

今年の6月1日より道路交通法の改正により自動車の後部座席でもシートベルトの装着が義務付けられました。シートベルトが運転者や同乗者の安全性を高めるからです。妊娠中のシートベルトについては先進国の多くが着用を義務付けていますが日本では「療養上または健康保持上適当でない場合」として妊娠中は装着しなくてもよいとされています。また妊娠中のシートベルトはかえって危険ではないほうがよいなどと誤解されていますがこれは以前の二点式のベルトの話であって、現在の三点固定式のシートベルトでは正しく装着すれば交通事故のときの妊婦と胎児に対する危険性が明らかに軽減されることがはっきりしてきました。アメリカのデータでは交通事故による母体死亡の77%がベルトを着用していない状況で発生しており、妊婦がベルトをしていない場合の事故時の胎児死亡相対危険度は、装着している場合の4.1倍になるといわれています。こうした状況から日本産科婦人

妊婦のシートベルト装着方法

1. 常に肩ベルトと腰ベルトの両方を装着する。
2. 腰ベルトは妊娠子宮の膨らみを足側に避けて、腰骨の最も低い位置、すなわち両側の上前腸骨棘～恥骨結合を結ぶ線に通す。腰ベルトは妊娠子宮の膨らみを、決して横切ってはならない。
3. 肩ベルトは妊娠子宮の膨らみを頭側に避けて、胸骨前すなわち両乳房の間を通過して側腹部に通す。肩ベルトは妊娠子宮の膨らみを、決して横切ってはならない。また、頭側にずれて首をこすこともないように留意する。
4. ベルトが緩むことなく、ぴったりと心地よく身体にフィットするよう調節をする。必要があれば、ベルトが適切に装着できるよう、座席シート自体の位置や傾きを調節する。
5. 妊娠子宮の膨らみとハンドルの間には若干の空間ができるよう、座席シートの位置を前後に調節する。

科学会では本年4月に刊行された『産婦人科診療ガイドライン 産科編 2008』のなかで、尋ねられたら『「斜めベルトは両乳房の間を通し、腰ベルトは恥骨上に置き、いずれのベルトも妊娠子宮を横断しない」という正しい装着により交通事故時の障害を軽減化できる』と説明するよう述べています。学会としてはじめて妊娠中の装着を推奨する見解を示したわけです。日本では交通事故のため年間20～40人の妊婦が死亡し、約千から1万件の流産がおこっているといわれています。母児の安全のため妊娠中でもシートベルトは着用しましょう。

ステロイドについて

膠原病内科部長
森 康一



膠原病にたいするステロイド投与の適応は大きく以下の4つにわけられます。ひとつめが絶対適応でほぼ全ての症例がステロイドによって治療することになります。この場合糖尿病、消化性潰瘍などステロイドの慎重投与の対象症例であってもそれぞれインスリン投与、PPIなどを投与しながら治療をおこないます。この適応となる疾患が、**Major**なものでは結節性多発動脈炎（現在では顕微鏡的多発動脈炎と古典的多発動脈炎に分類されます）、皮膚筋炎/多発性筋炎、ウエゲナー肉芽腫とアレルギー性血管炎、悪性関節リウマチがあてはまります。膠原病類縁疾患では高安病（高安動脈炎）側頭動脈炎などがあてはまります。つぎが積極的適応で症例の過半数が適応となる疾患で、全身性エリテマトーデス（SLE）がそれにあてはまります。SLEの6-7割がステロイドの適応になります。膠原病類縁疾患ではアダルトスチル病、リウマチ性多発筋痛症、シェンラインヘノッフオ紫斑病などがあてはまります。3つ目が消極的適応となる疾患で関節リウマチ（RA）が該当します。ステロイドにより骨破壊の抑制は期待できませんが疼痛のため仕事などに大きな支障を来たす場合などでは投与せざるをえないこともしばしばみられます。最後4つめが基本的には適応外となるもので、**Major**なものでは強皮症、シェーグレン症候群のふたつであり、膠原病類縁疾患ではベーチェット病、線維筋痛症などがあります。この場合でも重要臓器に炎症が及んだ場合や、疼痛著しい関節炎や長引く発熱などではステロイドの適応となることがあります。ステロイドにより発症リスクがたかまる疾患に、肺炎、心筋梗塞、糖尿病、骨折などがありますのでその適応、投与に際して注意が必要です。うつ病や神経症などメンタル面に問題をお持ちの患者さんにもその投与に際して注意が必要です。